

『文献 2019 年』

神津内科クリニック

神津 仁

1) 著書

神経の危機管理 (ミドルエイジの赤信号)	桐原書店	昭和 61 年
神経内科学書 糖尿病	朝倉書店	昭和 62 年
神経症候 (とらえ方と考え方) 顔面の運動異常	中外医学社	昭和 61 年
系統別「内科治療事典」	南山堂	昭和 60 年
内科セミナーPN5「基底核疾患」	永井書店	昭和 57 年
薬の作用・副作用と看護へのいかしかた	医歯薬出版	平成 4 年
臨床小児神経学 (共訳)	インテルナ出版	平成 7 年
インターネット・メディカル・レビュー	チーム医療	平成 8 年
在宅医療のマネージメントと実践ノウハウ	メディカル・コア	平成 9 年
実例より学ぶ在宅医療 (ケーススタディ 40)	メディカル・コア	平成 10 年
要介護認定調査ハンドブック(監修)	株式会社ミクス	平成 12 年
在宅医療の実践!Q&A(共著)	エルゼビア・サイエンス社ミクス	平成 12 年
在宅医療とホームケア(監修)	現代企画	平成 13 年
WIBA2001 年版「在宅医療」(p102-103)	日本医療企画	平成 13 年
今日の治療指針「失行・失認のケア」(p982)	医学書院	平成 14 年
year note2003 SELECTED ARTICLE「チーム医療」(p1779-1785) MEDIC MEDIA		平成 14 年
この一冊で在宅患者の主治医になれる「若い医師へのメッセージ」(p334-335) 南山堂		平成 14 年
診療報酬点数ハンドブック「在宅医療」(監修)	エルゼビア・ジャパン	平成 15 年
世田谷漢方処方研究会記録集(監修)		平成 16 年
在宅医療実践論	日医総研	平成 17 年
専門医が選んだ☆印ホームドクター(p256)	ライフ企画	平成 17 年
改訂要介護認定調査ハンドブック(監修)	株式会社ミクス	平成 18 年
鏡としての医師	現代医学出版	平成 19 年
医療従事者のための医療安全マニュアル	日本医師会	平成 19 年
エッセンシャル在宅医療テキスト	現代医学出版	平成 20 年
医療再生はこの病院・地域に学べ!	洋泉社	平成 21 年
介護福祉経営士テキスト(基礎編Ⅱ)「医療を知る」	日本医療企画	平成 24 年
糖尿病と歯周病(監修)	社会保険研究所	平成 26 年
「花祭り」	平塚印刷社	平成 26 年
糖尿病と高血圧(監修)	社会保険研究所	平成 27 年
改訂要介護認定調査ハンドブック(監修)	株式会社ミクス	平成 27 年
内科処方実践マニュアル(使い分けとさじ加減)	日本医学出版	平成 27 年

2)原著

A) 研究論文

糖尿病性神経障害とアキレス腱反射：臨床脳波、Vol.26, No.6, 1984.

DYSTONIA に対する SULPIRIDE の効果：神経内科治療,Vol.2, No.1, P19-24, 1985.

アキレス腱反射の客観的評価—反射計の試作および反射波の基礎的検討—：脳波と筋電図,Vol.15, No.1, 1987.

Feldene retards deterioration of sensory nerve function in diabetic rats. Neurology 40(Suppl 1), : 123, 1991.

ENDONEURIAL BLOOD SUPPLY TO PERIPHERAL NERVES IS NOT UNIFORM : JOURNAL OF NEUROLOGICAL SCIENCES, 111 : 204 - 208, 1992.

脊髄および脊髄根障害におけるペントキシフィリン（トレンタール 300）の効果：新薬と治療,Vol.43, No.3, P41-44, 1994.

高血圧の治療に、非観血的 24 時間血圧モニタリングを行なう意義について：日本臨床内科医学会誌,Vol.10, No.1, P15-19, 1995.

オメプラゾール投与により著明な改善を認めた H₂受容体拮抗薬抵抗性逆流性食道炎の 1 例：東京内科医学会誌,Vol.11, No.2, P113-116, 1995.

QOL からみた外来高血圧症治療：Therapeutic Research, Vol.21, No.11, 2000.

慢性硬膜下血腫と parkinsonism：日本臨床内科医学会誌,Vol.19, No.5, P486-490, 2005.

外来診療における成人百日咳の経験：日本臨床内科医学会誌,Vol.23, No.5, P607-611, 2009.

フェノフィブラートの肝機能値異常はどのくらい続くのか?：日本臨床内科医学会誌,Vol.24, No.5, P676-680, 2010.

新しい咽頭所見の観察法 その I：世田谷区医師会会報，第 61 巻，第 2 号,p13-15, 2011.

新しい咽頭所見の観察法 その II：世田谷区医師会会報，第 61 巻 第 3 号・第 62 巻 第 1 号 通巻第 286 号・第 287 号，p25-28, 2012.

B) 総論

老年者糖尿病の合併症（3）神経系疾患）：老化と疾,Vol.4, No.6, P47-52, 1991.

糖尿病性神経障害とアキレス腱反射：臨床脳波,Vol.26, No6, 1984.

癌性ニューロパチー：診断と治療,Vol.4, 839, 1986.

言語障害の分類：ブレインナーシング,Vol.2, No.2, P8-12, 1986.

髄液検査について：東京臨技会誌,Vol.10, No.6, 1982.

パーキンソン病の病態生理と治療法：理療,Vol.17, No.1, P16-22, 1987.

神経痛：MEDICAL PRACTICE, Vol.4, No.12, P1987-1991, 1987.

画像診断「この一枚」5（脳幹部腫瘍の核磁気共鳴コンピュータ断層撮影法）：日大医学雑誌, Vol.44, No.6, 1985.

アキレス腱反射計の試作：運動障害, Vol.1, No.1, P19-21, 1991.

外来におけるしびれのみかた（座談会）：J I M, Vol.4, No.4, P338-346, 1994.

医師会ネットワークについて：臨床医、Vol.25, No.4, 1994.

開業医の近未来視点（座談会）：J I M, Vol.5, No.5, P436-445, 1995.

訪問介護ステーションは今（座談会）：在宅医療 Vol12, No3, P35-49, 1995.

かぜの予防と治療の患者指導：今月の治療, Vol4, No1, P79-86, 1996.

かぜ症候群の治療（座談会）：今月の治療, Vol14, No1, P51-72, 1996.

在宅医療の現状と今後の展望について＜第一回在宅医療研究発表会より＞：在宅医療、Vo13, No2, P54-56, 1996.

痛みの陰にヘルペスあり？：J I M, Vol1.6, No.2, P148-149, 1996.

診察の体位を工夫する：J I M, Vol1.6, No.2, P150-151, 1996.

舞踏病、アテトーゼ、ジストニー：J I M, Vol1.6, No.8, P693-695, 1996.

神経内科医が口の中を診るとき：J I M, Vol1.6, No.10, P874-876, 1996.

在宅死についての一考察：在宅医療, Vo14, No1, P77-7856, 1997

医療“新時代”への提言5～情報化時代における医師－患者の関係、電子メールを使った医療相談～：JAMIC JOURNAL, Vo1.17, No5, P60-61, 1997.

介護保険とかかりつけ医～「かかりつけ医」の真の意味と介護保険への誠実な対応～：G P net, Vol.45, No.6, P50-53, 1998.

神経難病と人工呼吸器：J I M, Vol.8, No.7, P591-593, 1998.

在宅医療の確立と拡大を目指して(座談会)：在宅医療の実践 Q&A、Vol.1, No.1, 1999.

医療情報システムとさの利用(座談会)：臨床医、Vol.25, No.4, 1999.

「ニューメディアと医療」インターネットとメーリングリストで地域医療に“活”を入れる：クリニックマガジン、'99年7月号, P42-45, 1999.

若手開業医達の新しい地域医療：SCOPE(通巻458号)、Vol.39, No.4. 2000.

介護保険時代の在宅医療－病診・コメディカルの連携状況について：日本医事新報. 3963, p 28-32. 2000.

在宅医療は一人で何でもやらなければならないのか？：在宅医療の実践 Q&A、Vol.1, No.1, 2000

内科医のためのインターネット活用術（診察机の上のどこでもドア）：内科, Vol.86, No.5, P1024-1026, 2000.

インフルエンザ治療薬をどのように用いるか：日本プライマリ・ケア学会誌「プライマリ・ケア」、Vol.23, No. 3, P 277-281, 2000.

日本版 D R G：検査と技術 Vol.28, No.11, P1375-1378, 2000.

DRG/PPS と日本の医療：世田谷区医師会会報，通巻 252 号、Vol.50, No.2, P5-7, 2000.

特集「介護保険時代の在宅医療」病診・コメディカルの連携状況について：日本医事新報 No.3963, 4月8日号, P28-32, 2000.

新春寄稿「5年後の医界」展望：クリニックマガジン, 2001年1月号、P39, 2001.

21世紀を担うIT医療、PARTII「診療所のIT化」：新医療、2月号(132巻), 2001.

診療所のIT化：新医療, 2001年2月号, P132-135, 2001.

代替医療と健康食品について：東京内科医会会誌, Vol.16, No.3, P220, 2001.

居宅療養管理指導の実践：G P net, 2001 April, P38-41, 2001.

21世紀のネットワーク医療（巻頭言）：医療とコンピュータ, Vol.12, No.3, P1, 2001.

地域における医療と福祉～地域に根ざした医療を育てる～:SSKU「けんこう通信」増刊通巻第 456 号。
p 10-12. 6月 13 日発行 2001.

“21 世紀適応型”医療機関の肖像、21 世紀の進化と適応型を考える(座談会): 保険診療、Vol.53, No.1,
2002.(通巻 1353 号)

医療のリスクマネジメント「在宅から」: CLINICIAN4 月 1 日発行. p 23-28. 2002.

在宅医療の課題と今後の展望: 在宅医療の実践 Q&A、Vol.4, No.30, 2002

ネットワークによる診診連携: 実験 治療, No.670, p29-p33, 2003

在宅医療へのアドバイス『神経難病の在宅医療』: 日本プライマリ・ケア学会誌「プライマリ・ケア」、
Vol.26, No.2, P141-144, 2003.

実地医家のためのコンピュータ講座『9.地域医療ネットワーク』: 成人病と生活習慣病、 Vol.34, No1,
P141-145, 2004.

いま、居宅療養管理指導を再考する『在宅医療とホームケアの一体化で心のこもった介護保険制度を実施』: GP net, Vol.50, No.10, P22-27, 2004.

在宅医療の動向と展望: クリニカルプラクティス、Vol.24, No.1, 2005.

新卒後臨床研修を实践して: 東京内科医会会誌, Vol.21, No.2, P151-154, 2005.

在宅ケアのこれから: 月刊総合ケア, Vol.16, No.6, p86-93, 2006.

しびれの診方(臨床疫学と鑑別診断): JIM, Vol.16, No.9, P706-711, 2006.

すぐに役立つ臨床治療情報「在宅医療における嚥下障害の対応法」: CLINIC magazine, Vol.441, 11 月
号, 2006.

(飲酒後の)うたた寝に続いて麻痺を繰り返す患者の既往歴・家族歴は? Correspondence: JIM, Vol.16,
No.11, P881, 2006.

診療所の初期臨床プログラム: 日本プライマリ・ケア学会誌、Vol.29, No.4, P343-344, 2006.

しびれ・痛みの疫学—どのようなしびれ・痛みをよく診るか、: medicina, Vol. 45 No. 2, P205-209, 2008.

在宅療養支援診療所の現状そして今後の展望: 東京内科医会会誌, Vol.23, No.3, P220-225, 2008.

特集「次世代に伝えたいこと～開業医における医療の本道とは、永井友二郎先生をお招きして～」: 東
京内科医会会誌, Vol.24, No.1, P57, 2008.

特集「日常診療に活かすリスクマネジメント～在宅医療における医療安全～: THE EXPERIMENTAL
& THERAPY, No693, P.17-22, 2009.

巻頭コラム”プラタナス”「地域の医療環境を考える～医療エコロジー事始め～」: 週刊日本医事新報、
No.4441, P1. 6月 6 日号, 2009.

第 24 回日本臨床内科医学会、日臨内ワークショップ「成人百日咳」緊急アンケート調査結果報告: 日
本臨床内科医会会誌, 第 25 巻, 第 4 号, 479-484, 2010.

「教育講演:スマートフォン, タブレット端末が面白い『USTREAM の医学利用』: 日本皮膚科学会雑誌,
121(13), p3268-3271, 2011.

《認知症の医療連携・介護・制度》地域において認知症にどうやって対処していくか?: 臨床雑誌内科,
Vol.109, No.5, p815-820, 2012.

特集/コミュニティーにおける神経治療～都市における特性～: 神経治療, Vol. 29, No6, 739-744, 2012.

3)共著 (SECOND AUTHOR)

扁桃肥大を伴った Pickwickian 症候群の 1 例～とくに Capacitance pneumograph による呼吸パターンの解析を中心として～：日気食会報、Vol.32, No.1, 1981.

免疫異常、筋無力症様症状および大脳基底核石灰化を伴ったサルコイドミオパチーの 1 例：臨床雑誌「内科」, Vol.48, No.5, 11 月, 1981.

Therapeutic Pheresis：臨床血液、Vol.20, No.9, 0000.

正常圧水頭症の周辺にある 1 病態—Perivascular lucency を伴う脳萎縮症例の臨床的検討—：厚生省特定疾患正常圧水頭症調査研究班昭和 57 年度研究報告書, P53-61, 1983.

両側性緊張性瞳孔を伴う原因不明の慢性多発ニューロパチーに対する血漿交換療法：神経内科治療、Vol.1, No.1, 1984.

頭部 CT 造影剤としてのゼノン(Xe)：CT 研究、Vol.2, No.4, P489-464, 1984.

心臓神経症患者の看護：臨床看護、Vol.2, No.2, 1986.

消化器癌と神経合併症：神経内科、Vol.17, P234-143, 1982.

画像診断「この一枚」13 (肺癌、EATON-LAMBERT 症候群、重症筋無力症)：日大医学雑誌, Vol.43, No.2. 1984.

画像診断「この一枚」5 (脳幹部腫瘍の核磁気共鳴コンピューター断層撮影法(NMR-CT))：日大医学雑誌, Vol.44, No.6. 1985.

肝障害と脳症を伴った急性 Br 中毒の一例：日大医学雑誌, Vol.46, No.7. 1987.

新しい画像診断”MRI” 7. 頸部脊髄症：日大医学雑誌, Vol.46, No.11. 1987.

脳萎縮を伴う髄液循環障害（非定型正常圧水頭症）に対する shunt 手術適応—血清 α_1 - antichymotrypsin 値と硬膜外圧持続測定での圧波の評価—：埼玉県医学会雑誌, Vol.27, No.2, P456, 1992.

脳萎縮を伴う髄液循環障害（非定型正常圧水頭症）に対する shunt 手術適応—血清 α_1 - antichymotrypsin 値と硬膜外圧持続測定での圧波の評価—：脳神経外科, Vol. 21, No. 5, P417-423, 1993.

Studies of resistance to ischemic nerve conduction failure in normal and diabetic rats.：J Neurol Sci 93:61-67, 1989.

Acute changes in blood glucose affect resistance to ischemic nerve conduction failure.：Neurology 40:107-110, 1990.

Piroxicam may reduce the rate of progression of experimental diabetic neuropathy.：Neurology 40:1446-1449, 1990.

The effect of aminoguanidine on the blood-retinal barrier in streptozotocin-induced diabetic rats.：Ophth Surg 22:44-47, 1991.

Endoneurial capillary density and capillary luminal area are reduced in diabetic rats.：Neurology 42(Suppl 3):143-144, 1992.

Amyotrophic lateral sclerosis with ophthalmoplegia and multisystem degeneration in patients on long-term use of respirators: Acta Neuropathol 84:372-377, 1992,

厚生省特定疾患スモン調査研究班「東京都におけるスモン在宅検診と在宅患者訪問診療の連携-世田谷区での試み-」：医療システムⅡ (b)、18, 1997.

未来医師会ビジョン委員会答申「今、医師会員として何をなすべきか」-地域住民、国民とともに-：日

本医師会未来医師会ビジョン委員会、2004.

パネルディスカッション「避けては通れぬ在宅医療」パネルディスカッションの司会を終えて：神経治療学, Vol.25, No.6, P717-718, 2008.

4)学会報告論文

A) 日本神経学会総会

白血病における神経症状の臨床的ならびに病理学的検討：第 21 回（京都）1980

簡便安価な腱反射計の試作及び T 波 H 波との比較について：第 22 回（熊本）1981

アキレス腱反射計による神経疾患のスクリーニングの試み：第 26 回（松江）1985

髄膜癌腫症 2 例にみられた髄液中 ALP 結合性免疫グロブリン：第 27 回（熊本）1986

B) 神経内科関東地方会

不眠、頭痛、呼吸異常を伴う晩発性ジストニア・ジスキネジアにおける Sulpiride の有効性：第 76 回,1981.

Sulpiride が著効を示した痙性斜頸の 1 例：第 77 回,1981.

腱反射の逆転を示す 1 症例：第 78 回,1981.

頭部振戦における 1 考察：第 87 回,1983.

著明な痙性四肢麻酔、仮性球麻酔、交代性眼振および進行性の脳幹・小脳萎縮を示す成人発症の ALD と考えられる 1 症例：第 90 回,1984.

C) 神経内科治療学会

DYSTONIA に対する SULPIRIDE の効果：第 1 回,1983.

頸性脊髄症に対するペントキシフィリンの効果：第 3 回,1985.

D) その他の学会、および研究会

OBJECTIVE EVALUATION OF ACHILLES TENDON REFLEX：第 7 回アジア・オセアニア神経学会議（バリ）,1987.

PIROXICAM RETARDS DETERIORATION OF SENSORY NERVE FUNCTION IN DIABETIC RATS：アメリカ神経学会（マイアミ）,1990.

MRI にて病巣を確認できた、Weber's syndrome の一例：鶴見医学会（神奈川県鶴見区）,1991.

「めまい」の診断における MRI の有用性：第 15 回日本脳神経 CT 研究会（広島）,1992.

高血圧症の治療に、非観血的 24 時間血圧モニタリングを行なう意義について：第 8 回日本臨床内科医学会（広島）,1994.

オメプラゾール投与により著明な改善を認めた H₂受容体拮抗薬抵抗性逆流性食道炎の 1 例：第 8 回東京臨床内科医学会（東京）,1995.

サノレックス無効、VLCD 変法が有効であった高度肥満症の 1 例：第 9 回日本臨床内科医学会（金沢）,1995.

レボドーパ大量投与療法と開眼失明：第 10 回日本臨床内科医学会（別府）,1996.

レボドーパ大量投与療法と開眼失明：第 11 回城南神経懇話会（東京）11 月,1996.

在宅医療の現状と今後の展望：第 1 回在宅医療研究会（関東中央病院、東京）5 月 24 日,1996.

当院における在宅死について：第 2 回在宅医療研究会（都立荏原病院、東京）8 月 29 日,1996.

在宅医療における遠隔医療導入の問題点：第 3 回在宅医療研究会（日本大学医学部、東京）11 月 15 日,1996.

在宅における死を考える：第 4 回在宅医療研究会（世田谷区民会館）3 月 27 日,1997.

世田谷区における診診連携の試み：第 5 回在宅医療研究会（国立東京第二病院）6 月 20 日,1997.

都会型訪問診療と交通ルール：第 6 回在宅医療研究会（東京医科大学）9 月 18 日,1997.

在宅における死を考える：第 11 回日本臨床内科医学会（秋田）,1997.

当院と第三講座との素晴らしい病診連携～手術 4 症例を通して～：第 20 回東邦大学医学部外科第三講座集談会（大橋病院臨床講堂）12 月 13 日,1997.

後下小脳動脈領域の血管障害によるめまい：第 11 回東京臨床内科医学会（東京）,3 月 14 日,1998.

各科診療における在宅医療：第 7 回在宅医療研究会（キャロットタワー）5 月 9 日,1998.

「シンポジウム：在宅ケアの地域性と多様性」：第 4 回在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク、全国の集い in 東京（九段会館）7 月 19 日,1998.

「全国若手医師情報ネットワーク」:IDGヘルスイノベーションワールド'98（パシフィコ横浜）9 月 13 日,1998.

インターネット医療相談：第 12 回日本臨床内科医学会（松山）,11 月,1998.

かぜ症候群にウイルス検索を行なう意義について：第 12 回東京臨床内科医学会（東京）,3 月 13 日,1999.

インターネットによる生涯教育：第 25 回日本医学会総会（東京）,4 月 3 日,1999.

電子カルテは紙カルテを超えたか：全国医療情報システム連絡協議会第 17 回定例会議、座長（埼玉県県民健康センター）11 月 26 日,2000.

在宅医療とコンピューターネットワーク：栃木県医学会生涯教育研修会、平成 12 年度在宅医療の推進のための実地研修会（とちぎ健康の森）3 月 10 日,2001.

高齢者の栄養補給にどのような半消化態製品を選択すべきかを考える：第 14 回東京臨床内科医学会 3 月 10 日,2001.

生活習慣病を健康食品によってコントロールする試み：第一報：第 14 回東京臨床内科医学会 3 月 10 日,2001.

終末期パーキンソン病における困難事象：第 2 回城西地区パーキンソン病治療研究会（品川プリンスホテル）3 月 4 日,2001.

嚥下食、咀嚼困難者食の課題と実践：第 23 回フード・ケータリングシンポジウム（東京ビッグサイト）,11 月 8 日,2001 年.

THE FIRST TRIAL FOR THE MULTI FACILITIES PROSPECTIVE STUDY ABOUT THE INOCULATION TREND, VALIDITY AND SAFETY OF THE INFLUENZA VACCINE BY THE INTERNET IN JAPAN: 26th International Congress of Internal Medicine (KYOTO), 5 月 27 日, 2002 年.

インターネット利用により診断した Asymmetric myopathy の一例：城南神経懇話会，6月20日，2002年。

神経疾患の診療連携：第21回神経疾患研究会(世田谷区医師会)，10月21日，2002年。

地域における診療連携に電子カルテをどう利用するか：第16回東京臨床内科医学会3月8日，2003年。

Parkinsonism で発症した慢性硬膜下血腫の一例：第5回日本正常圧水頭症研究会(大阪)。1月31日，2004年。

慢性硬膜下血腫と parkinsonism：第18回日本臨床内科医学会(岡山)。9月19日。2004年。

当院における12年間の死亡統計と在宅死：第20回東京臨床内科医学会3月11日，2006年。

NASHにおける臨床診断基準の妥当性：第20回東京臨床内科医学会3月11日，2006年。

甲状腺機能亢進症に見られた treatable dementia の一例：第二回日本臨床内科医学会9月16日，東京，2006年

シンポジウム「人口減少社会の医療と福祉」：第二回日本臨床内科医学会9月17日，東京，2006年

「人生を支える医療—地域でささえあいつなぐいのち—、コメンテーター発言」：第二回在宅医療推進フォーラム11月23日，全共連ビル，東京，2006年11月27日

甲状腺機能亢進症に見られた treatable dementia の一例：第6回世田谷区医師会医学会11月25日，東京，2006年

シンポジウム「医療・介護ニーズを合わせ持つ重度者が住まいで生活を継続するために必要な支援とは」：第12回訪問看護等在宅ケア交流研究集会、東京ビックサイトレセプションホール，11月25日，東京，2006

これからの在宅ケアはチームケア～重度療養者が安心して過ごせる地域を目指して～：第31回日本プライマリ・ケア学会学術会議(岡山コンベンションセンター)、6月15日，2008年。

歯科治療(インプラント)を契機として一側性眼瞼下垂を生じた一例：第32回城南神経懇話会，6月28日，2007年。

外来診療における成人百日咳の経験：第22回日本臨床内科医学会(長崎)。9月14日。2008年。

新しい自動電子血圧計システム(Microlife社製 WatchBP)の評価：第22回日本臨床内科医学会(長崎)。9月14日。2008年。

高血圧診療に有用と考えられた新しい自動電子血圧計システム(WatchBP)の評価、第一報：第31回日本高血圧学会(札幌)。10月9日。2008年。

外来診療における成人百日咳の経験：第8回世田谷区医師会医学会。12月6日。2008年。

介護困難度を客観的に評価するための新しいスケールの開発：第22回東京内科医会医学会。3月14日。2009年。

高齢者の外来血圧および家庭血圧測定時に注意すべき事項の検討：第32回日本高血圧学会(大津)。10月3日。2009年。

フェノフィブラートの肝機能値異常はどのくらい続くのか?：第23回日本臨床内科医学会(大宮)。10月11日。2009年。

外来血圧および家庭血圧測定時に注意すべき事項の検討：第23回日本臨床内科医学会(大宮)。10月11日。2009年。

初期アルツハイマー病を疑われた Anarthrie の一例：第23回東京内科医会医学会。3月13日。2010年。

神津内科クリニックにおける地域医療研修：第42回日本医学教育学会(東京、都市センターホテル)。7

月 31 日. 2010 年.

診療情報提供のやり取りから見た地域医療連携の現状:第 24 回日本臨床内科医学会(金沢).10月10日.
2010 年.

新しい咽頭所見の観察法:第 25 回日本臨床内科医学会(徳島).10月6日.2012 年.(推薦演題)

新しい咽頭所見の観察法:第 26 回東京内科医会医学会.3月9日.2013 年.

「頭痛診療および薬物乱用頭痛 (medication overuse headache=MOH) に関するアンケート調査報告」:第
29 回東京内科医会医学会.3月12日.2016 年.

「Sleep splint が著効した睡眠時無呼吸症候群の一例」:第 29 回東京内科医会医学会.3月12日.2016
年.

地域における研修医教育 12 年のまとめ～臨床内科医の役割～:第 31 回日本臨床内科医学会(大阪).10
月8日.2017 年.(推薦演題)

E) その他の学会における共同演者

人間ドックにおける神経疾患のスクリーニングー頸椎レ線像とアキレス腱反射波、1000 例の検討ー:第
25 回人間ドック学会(名古屋),1984.

ポテンシオメーターを用いた糖尿病患者のアキレス腱反射形の検討:第 26 回日本糖尿病学会総会(誌
上発表)

髄液中にのみ認められた ALP 結合性免疫グロブリンの 2 症例:第 36 回電気泳動学会総会(新潟),1985.

Acid Violet 17 を用いた高分解能アガーローズゲル電気泳動法:第 36 回電気泳動学会総会(新潟),1985.

インターネットと地域医療:第 10 回日本臨床内科医学会(別府),1996.

在宅医療におけるポータブル X 線装置を用いた在宅放射線診断の試み:第 11 回日本臨床内科医学会(秋
田)9月,1997.

「シンポジウム:医療、福祉、保険の連携」座長:全国在宅訪問栄養食事指導研究会、全国大会(東京)
於東京誠心調理師専門学校,3月20日,1999.

地域連携システム:第一回世田谷区医師会医学会,11月8日,2001 年.

5) 症例報告

運動失調、パーキンソニズム、自律神経障害及び軽度の高次精神機能の低下を伴う 58 才の男性。この
経過中に食道通過障害で発症した原発巣不明の全身性転移性腫瘍について:日大クリニッ
ク, Vol. 12, No. 2, P31-41, 1983.

言語障害で発症し、進行性の意識障害、ミオクローヌスを呈し死亡した一症例:日大クリニッ
ク, Vol. 14, No. 3, P19-25, 1985.

左片麻痺で発症したが、早期に麻痺の改善が得られ日常生活に復帰できた 1 例:Pharma
Medica, Vol. 12, No. 3, P180, 1994.

牛車腎気丸投与が効果を認めた、前胸・腹部の島状感覚障害の 1 例:漢方, VOL. 13, No. 7, P22-23, 1994.

6)その他

- TBSドラマ「渡る世間は鬼ばかり」医学監修, 1996～1997年
- 頭痛：with, 講談社, 12月号, 1996年
- 頭痛・肩凝り：MINE, 講談社, 1月号, 1995年
- 頭痛：MINE, 講談社, 1月号, 1994年
- 頭痛：LEE, 集英社, 5月号, 1993年
- 頭痛：MORE, 集英社, 8月号, 1986年
- 不快な頭痛体質にサヨナラ！：微笑, 祥伝社, 9月16日号, P141, 1995年
- 頭痛についての健康相談：ショッピング11月号, 1986年
- 群発頭痛について：メディカルトリビューン, 「鹿児島新報」「日刊福井」「民報」1986年
- 神経の危機管理：テレビ東京, 2月27日放送, 1987年
- 頭痛：テレビ東京, 3月4日放送, 1988年
- Q & A「TIAの治療」：日大クリニック Vol. 13, No. 1, P35, 1984.
- 珍しい病気新しい病気「HTLV-I ASSOCIATED MYELOPATHY (HAM)」：日大医学同窓新聞, 第366号, 1986.
- 東松山市民病院における神経内科疾患（I）：日大医学同窓新聞, 第409号, 1990.
- 東松山市民病院における神経内科疾患（II）：日大医学同窓新聞, 第410号, 1991.
- 沈黙を破って：日大医学同窓新聞, 第431号, 1993.
- ブレインバンク：日大医学同窓新聞, 第435号, 1993.
- 胎動が聞こえる（日本大学医学部新生の息吹）：日大医学同窓新聞, 第440号, 1993.
- 外来診療におけるしびれのみかた：J I M, 第4巻, 第4号, P338-346, 1994.
- 「スポーツ医学を外来で役立てる」を読んで：J I M, 第4巻, 第9号, P833, 1994.
- 日本大学総合情報センター誕生の意味を考える：日大医学同窓新聞, 第447号, 1994.
- 新春座談会「これからの開業・継承」：TMDCMATE、第197巻, 第1号, 1995.
- 「三冊の本」：日本大学医学部図書館案内, No. 269, 1995.
- 診療器機ガイド「24時間血圧計」：J I M, 第5巻, 第1号, P47, 1995.
- 診療器機ガイド「診察台」：J I M, 第5巻, 第2号, P183, 1995.
- 診療器機ガイド「X線装置」：J I M, 第5巻, 第3号, P277, 1995.
- 診療器機ガイド「簡単な診察道具」：J I M, 第5巻, 第4号, P374, 1995.
- 診療器機ガイド「血糖測定器、スピード血沈台」：J I M, 第5巻, 第5号, P462, 1995.
- 診療器機ガイド「スパイロメーター、ピークフローメーター」：J I M, 第5巻, 第6号, P568, 1995.
- 診療器機ガイド「脳波計」：J I M, 第5巻, 第7号, P635, 1995.
- マイクロダイエットにおける治療経験と肥満について（誌上談話）
- ：MINE, 講談社, 3月号, 1995年
- 同上：LEE, 集英社, 3月号, 1995年
- 同上：VISIO MONO, ワールドフォトプレス社, 5月号, 1995年
- 同上：ミセス, 文化出版社, 6月号, 1995年
- 同上：ソフィア, 講談社, 6月号, 1995年
- 同上：ソフィア, 講談社, 7月号, 1995年

同上：クロワッサン, 株式会社マガジンハウス社, 7月号, 1995年

J I M 質問コーナー：J I M, 第5巻, 第12号, P1114, 1995.

インタビュー「私の医療経営」：医療経営情報, No86(2月号), 1996.

街の名医：日刊ゲンダイ, 5月31日号, 1996.

パーキンソン病：中日新聞、7月27日, 東京新聞、7月29日号, 1996.

開業医がネットワーク：中日新聞、8月30日号, 東京新聞、9月2日号, 1996.

健康Q&A「秋の健康チェック」：東京新聞、9月13日号(上), 9月20日号(中), 9月27日号(下), 1996.

パーキンソン病：中日新聞、7月27日号, 東京新聞、7月29日号, 1996.

若い先生方の開業が医療を変える大きな原動力になる：JAMIC JOURNAL, Vol. 16, No. 9, 1996.

信頼の中から生まれる地域医療：世田谷文化、11月5日第56号, 1996.

「インフルエンザとインターネット」：朝日新聞, 1月30日号(40555), 1997.

風邪：TARZAN, マガジンハウス, 2月号, 1997年

いま、医療に望まれる「信頼と安心」：世論時報、第30巻, 第2号, 1997.

インターネットクリニックⅡ：医療新報、3月15日第192号, 1997.

インターネットクリニックⅡ：医療新報、7月15日第194号, 1997.

インターネットクリニックⅡ：医療新報、11月15日第196号, 1997.

街角の聴診器「大学病院並の診療科目で」：医療新報、11月15日第196号, 1997.

インターネットを介する医療の可能性を探る：J M S、9' /10月号, Vol. 37, P46-47. 1997.

在宅医療と法的環境の諸問題を探る：J M S、12月号, Vol. 38, P59-61. 1997.

行動半径19「地域医療を変える若手開業医ネットワーク」：SCOPE, Vol. 36, No. 8, P46-47, 1997.

病院ニューウェーブ「神津内科、若手開業医の交流会主宰」：日経産業新聞、9月10日号(22), 1997.

かかりつけ医のネットワーク、世田谷区若手医師の会：M R Journal, 12月号, P36, 1997.

地域医療「専門医として生きる開業医たちの試み」：Suzukenn Medical. Vol. 1, No. 1, P13-14, 1998.

忘れ得ぬ患者さん：東京内科医会会誌、Vol. 14, No. 1, 1998.

年男・年女「五黄の虎」：世田谷区医師会会報、通巻245号、Vol.48, No.1, P5-6, 1998.

TOPIC「自由に、そしてフレンドリーに医療を語る」：T K C 医業経営情報、4月 No. 41, P18-19, 1998.

医療新報にクリック4：医療新報, 7月15日, 第200号, 1998.

夏バテを防止する賢いゴルファーの生活術：A L B A, 9月10日, 第309号, 1998.

検診で数値が高いといわれたら：共同通信社, 1998.

シンポジウム在宅ケアの地域性と多様性：月刊総合ケア, Vol. 8, No. 11, P40-43, 1998.

地域医療とは地域に根差した医療：月刊総合ケア, Vol. 8, No. 11, P28-29, 1998.

恐怖のA型インフルエンザの特効薬を発見：女性自身, 2月23日第42巻, 8号, 1999.

同様記事：女性セブン

インフルエンザ特効薬「アマンタジン」をなぜ使わない！？：週刊文春, 2月18日第41巻, 7号, 1999.

大猛威インフルエンザは特効薬アマンタジンで撃退できる！：アサヒ芸能, 2月18日第54巻, 7号, 1999.

日本人はインフルエンザの格好の餌食だ！：週刊プレイボーイ, 2月23日第34巻, 7号, 1999.

マイホビー「ヨットと私」：メディカル朝日, 2月号, 第28巻, 2号, P97. 1999.

効いた！インフルエンザ新薬：産経新聞. 5月14日, P15, 1999.

書評-高久史磨・和田攻監訳「ワシントン・マニュアル第八版」:日本医事新報,5月15日号,第77巻,3916号,1999.

クルージング、思い出のバーজন諸島:CLINIC magazine、3月号(347巻),2000.

ドクター相談室「慢性頭痛」:にっこうけんぽ 11/12月号,2000.

「冷房病にならないためには?」:エフエム世田谷,6月4日1時30分,1999.

西海岸見聞録(アメリカ短訪):世田谷区医師会会報,通巻256号、Vol.51, No.3, P13-21, 2001.

お答えします・専門医診断「拒食・過食を繰り返したら危険信号ー摂食障害は心とからだのアンバランスから」:潮, December 1, p 310-311, 2001.

介護食、楽しくおいしくを基本に:朝日新聞,12月3日,2001.

医師の視点「個人にフィットしたオーダーメイドの栄養管理をしてほしい」:ヘルスケア・レストラン, 1, p 16-17, 2002.

座談会;21世紀進化適応型を考える:月刊保険診療, Vol. 57, No. 1, p 10-21, 2002.

家族の健康管理はここがツボ:ra・coeur(ら・くーる), 第25号, p2-3, 2003.

21世紀の診療所医療のアウトライン:メディカル・クォール、4月号(101巻), 2003.

FOCUS、「国際疾病分類学会」設立～国内におけるICDの普及・確立に向けて～:JAMIC JOURNAL, Vol. 23, No. 5, p8-9, 2003.

インタビュー、国際疾病分類の普及を図る学会誕生:MEDICAL ASAHI, Vol. 32, No. 5, p8-11, 2003.

特集在宅での看取り「病院で看取るべきか、在宅で看取るべきか」:在宅医療とホームケア, 12月号, p12-13, 2003.

新春鼎談『円滑な連携作りの知恵を語る』座談会:メディカル朝日, Vol. 33, No. 1, 2004.

頭痛最新事情『血管性頭痛、朗報!!特効薬「トリプタン製剤」』:夕刊フジ, 1月20日号, 2004.

盛況!市民講座『末期がん在宅治療』:夕刊フジ, 2月4日号, 2004.

『こういうMRに訪問してほしい!』座談会:メディカル朝日, Vol. 33, No. 2, 2004.

上気道感染症の診断と治療～耳鼻咽喉科からみた診療のポイント～(認定医指定研修講座):プライマリ・ケア, 3月号, p65, 2005

ばんぶう「人間力」養成塾・今月の「座右銘」「光一隅を照らす」:ばんぶう, 4月号(通巻276号), p 57, 2004.

「診療所の機能評価」を考える-識者の意見-「診療所の第三者評価では地域医療の質向上は図れない」:Clinic magazine, 6月号(通巻407号), p 13, 2004.

“第3の医療”として、これからの地域医療を支える「在宅医療」:Clinical Watch, No. 8, 2004.

在宅医療、医師が情報交換:岐阜新聞、7月31日号,2004.

地域医療と臨床内科医「日常診療にITをどう使うか」:東京内科医会創立20周年記念誌, P60-62, 2004.

医師臨床研修・ビルドアップ講座「医師になったからには24時間医師であるべき」:ばんぶう, 8月号(通巻280号), p 57, 2004.

在宅での「医療・看護・介護の活用ノウハウ」徹底公開!「バックアップホスピタルを確保、高度な医療も在宅で可能に」:ホスピタウン, 10月号(通巻152号), p31, 2004.

健康生活のすすめ⑰「漢方の風邪薬は体質とタイミングで選ぶ」:婦人公論, 11月22日号, No1165, p106, 2004

佐島ジュニアヨットクラブと私(特別寄稿):Dr. Holiday, No112, p44, 2005.

医療・健康の「常識」ウソ or ホント?: ホスピタウン, 4月号(通巻158号), p52, 2005

元気に夏をエンジョイ! 暑さ対策が夏バテ解消: ヘルス&ケア, 7月1日、第229号, 2005

「主張〜3人の怒れる経営者たち〜」: 最新医療経営 Phase3, 7月号, p29, 2005

鼎談、家庭向けの携帯型心電計が循環器診療に与えるインパクト: Medical Tribune, 7月14日, 2005

町医者人生: 朝日タウンボイス, 11月13日号, 2005

「その風邪何色ですか?」: 女性セブン, 11月17日号, p90, 2005

「脳腫瘍」Medical Clip: 週刊朝日, 11月18日号, p107, 2005

映画推薦文「上げば尊し」: 朝日新聞(夕刊), 12月13日, 2005

在宅医療〜人の生と死に関する科学として〜: DRP、Vol.21, No.9, 2005.

在宅医療〜人の生と死に関する科学として〜: DRP、Vol.21, No.10, 2005.

在宅医療〜人の生と死に関する科学として〜: DRP、Vol.21, No.11, 2005.

在宅医療〜人の生と死に関する科学として〜: DRP、Vol.21, No.12, 2005.

在宅医療〜人の生と死に関する科学として〜: DRP、Vol.22, No.1, 2006.

2006年頭にあって「患者さんを支えるパートナーに期待すること」: NURSE CALL, 1月号, 2006.

映画「上げば尊し」(主演: テリー伊藤): 医学監修, 1月ロードショー, 2006

「視点〜せめて10年間は制度変更をしないように希求〜」: CLINIC magazine, 3月号, p7, 2006.

在宅医療のABC(監修): ロハス・メディカル, 4月号, 2006.

the Family Doctor「神津 仁」: CLINIC BAMB00, 4月創刊号, Vol.300, p3-7, 2006.

18年改定-我々はこう受け止めた「支援診療所、励みになる」: 日本医事新報, 5月27日号, 4283号, p13-14, 2006.

在宅医療マーケットの地殻変動「在宅医に求められるもの」: 連携医療, 7月号, Vol.2, No.3, p14-21, 2006.

やさしい医学講座「ジェネリック薬品の意外な落とし穴」: CL Smile, 9月号, 2006.

やさしい医学講座「グレープフルーツと高血圧薬の関係」: CL Smile, 10月号, 2006.

私の視点「新薬承認 パーキンソン病薬急いで」: 朝日新聞, 10月18日, 2006.

在宅療養支援診療所「個々の専門職が対等な関係で結ばれた多様なネットワークが患者さんの安定した療養生活を支える」: NICヘルスケアパートナー, Vol.4, No.24, p10-11, 2006.

在宅医療を支える地域連携システムとは「在宅療養支援診療所から作り上げる診療連携」: 病院, Vol.65, No.10, p824-826, 2006.

「内科医会・在宅医療フォーラム」講演集: 世田谷区医師会内科医会, 10月30日, 2006.

やさしい医学講座「高齢者の死因に肺炎が多い理由」: CL Smile, 11月号, 2006.

やさしい医学講座「正しい処方と使用が肝心の漢方薬」: CL Smile, 12月号, 2006.

新薬承認 パーキンソン病薬急いで: 月刊医療情報, P14, 12月号, 2006.

新春座談会、在宅医療の「現在・未来」を語る: CLINIC BAMB00, 1月号, Vol.309, p26-33, 2007.

学会報告①在宅医療推進フォーラム: Home Care MEDICINE, 第1号冬号, Vol.8, p60-62, 2007.

在宅医療日誌「心医」: alfresa NEWS, No84, File1, 2007.

やさしい医学講座「パーキンソン病と薬剤性パーキンソンソニズム」: CL Smile, 1月号, 2007.

やさしい医学講座「メタボリック症候群が登場した本当の目的とは?」: CL Smile, 2月号, 2007.

やさしい医学講座「TV広告の『良く効く』って本当?」: CL Smile, 3月号, 2007.

やさしい医学講座『古武術』を介護に生かす」：CL Smile, 4月号, 2007.

やさしい医学講座「飛行機事故から考える在宅ケアにおける安全管理」：CL Smile, 5月号, 2007.

やさしい医学講座「間違いだらけの『法則』その1」：CL Smile, 6月号, 2007.

やさしい医学講座「間違いだらけの『法則』その2」：CL Smile, 7月号, 2007.

やさしい医学講座「在宅医療と死亡診断書」：CL Smile, 8月号, 2007.

やさしい医学講座「慢性疲労症候群とは？」：CL Smile, 9月号, 2007.

やさしい医学講座「肺炎球菌ワクチンは本当に効くの？」：CL Smile, 10月号, 2007.

やさしい医学講座「あなたのそのセキ、大丈夫ですか？」：CL Smile, 11月号, 2007.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その1】」：CL Smile, 12月号, 2007.

逆転の発送、在宅医療「在宅医療・医療連携の課題と展望は」：医療タイムス, 2007.

医療連携・対談「神津 仁/梅田耕明」：CLINIC BAMBOO, 7月号, Vol.315, p8-11, 2007.

最前線レポート「理想の地域医療の確立をめざし、ネットワークの構築で若手医師を支える」：TKC 医業経営情報, 7月号, No.152, p10-13, 2007.

連載インフォカス第49回「特定非営利法人NPO 法人全国在宅医療推進協会」：介護保険情報, 7月号, p28-29, 2007.

やすらぎ at ホーム「在宅療養支援診療所の取り組み」：No.8, エム・イー・タイムス, 2007.

鼎談「在宅医療の充実は“病を診て人を診ず”の是正にあり！」：CLINIC BAMBOO, 9月号, Vol.317, p65-71, 2007.

鼎談「在宅療養支援診療所の現状と課題を徹底検証」：CLINIC BAMBOO, 10月号, Vol.318, p65-71, 2007.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その2】」：CL Smile, 1月号, 2008.

人(ひと)「肩書きではなく、人を見る。それがネットワークづくりの基本」：日本医事新報, 1月26日号, 4370号, p33, 2008.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その3】」：CL Smile, 2月号, 2008.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その4】」：CL Smile, 3月号, 2008.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その5】」：CL Smile, 4月号, 2008.

やさしい医学講座「急に頭が痛くなったらどうする？【その6】」：CL Smile, 5月号, 2008.

やさしい医学講座『『便』を知ることは健康を知ることなり【その1】』：CL Smile, 6月号, 2008.

やさしい医学講座『『便』を知ることは健康を知ることなり【その2】』：CL Smile, 7月号, 2008.

やさしい医学講座『『便』を知ることは健康を知ることなり【その3】』：CL Smile, 8月号, 2008.

やさしい医学講座『『急性冠症候群』って知っていますか?』：CL Smile, 9月号, 2008.

やさしい医学講座「夏だけではない熱中症の危険」：CL Smile, 10月号, 2008.

やさしい医学講座「大人もかかる百日咳」：CL Smile, 11月号, 2008.

やさしい医学講座「睡眠について考える」：CL Smile, 12月号, 2008.

列島 Net ワーキング「在宅医療のさらなる充実に向けて」：国民生活, 3月号, p32-33, 2008.

在宅訪問栄養食事指導症例集「在宅医療充実へ今こそ訪問開始を」：ヘルスケア・レストラン, 4月号, p54-59, 2008.

新連載：開業医の心得帳「長寿医療制度」：JAMIC JOURNAL, Vo25, No.5, p54-55, 2008.

プライマリケア医のための認知症のBPSD(行動・心理症状)の診かた「後期高齢者医療制度における認知症診療の実際」：日本医事新報, 5月3日号, 4384号, pC1-C6, 2008.

特集「2008年度改定の”影響”を検証する」⑤新点数に惑わされず、堅実な医療を行う：月刊/保険診療、第63巻、第8号、p20-22, 2008.

一問一答よろず相談「最後は家で」という祖母の望みをかなえたい：かいごの学校、7月号、p54, 2008.

一問一答よろず相談「高齢者の肺炎」：かいごの学校、9月号、p48, 2008.

医療、ゆうゆう Life「介護と手をとる在宅医療」：産経新聞、p17, 9月10日号, 2008.

第31回日本プライマリ・ケア学会「保健・医療・福祉の多職種協働システムを」～：Medical Tribune, p22～23, 9月11日号, 2008.

医療機関連携、患者との信頼関係が重要～地域医療体制におけるかかりつけ医の役割～：Medical Tribune, p46～47, 9月18日号, 2008.

やさしい医学講座「血压とその周辺を学ぶ その1」：CL Smile, 1月号, 2009.

やさしい医学講座「血压とその周辺を学ぶ その2」：CL Smile, 2月号, 2009.

やさしい医学講座「死ぬ時は苦しくない」：CL Smile, 3月号, 2009.

やさしい医学講座「不随意運度ってなに？」：CL Smile, 4月号, 2009.

医療羅針盤「私の提言、第13回～国民が良質な在宅医療、在宅ケアを受けられる体制作りを目指すべきだ」：新医療、2月号、p22-24, 2009.

「日本における看取りを進めていくために」：Heartful Work, Vol.52, 3月1日号, 2009.

フロンティア's「具体的な情報提供による在宅医療の啓蒙を目指して」：月刊/保険診療、5月号、P54-57, 2009.

鳥越俊太郎「医療の現場」「あなたの身近で役に立つ-かかりつけの医師その重要性-」：BS朝日、7月18日(土) 夜18時～18時30分、7月19日(日) 朝10時～10時30分、2009.

「血压サイクルに本当の危険度が・・・」：女性自身、10月20日号、P56, 2009.

「ALSについての解説」：TBS朝ズバ!10月14日、2009.

【医療】医師の目「診療所と病院 役割分担を」：日本経済新聞、10月18日(日)、P31, 2009.

【医療】医師の目「大学病院に外来は必要か」：日本経済新聞、10月25日(日)、P27, 2009.

【医療】医師の目「国民皆保険地域で支える」：日本経済新聞、11月1日(日)、P29, 2009.

【医療】医師の目「『質の良い医療』受けるには・・・」：日本経済新聞、11月8日(日)、P27, 2009.

岐路に立つ日医「構造改革を掲げたビジョン委員会、改革を阻む代議員制度にメスを」：CLINIC BAMBOO, 11月号、Vol.343、p26-27, 2009.

医療時評 連載 第1回：看護実践の科学、1月号、Vol.35、No.1、p80, 2010.

医療時評 連載 第2回：看護実践の科学、2月号、Vol.35、No.2、p82, 2010.

医療時評 連載 第3回：看護実践の科学、3月号、Vol.35、No.3、p80, 2010.

医療時評 連載 第4回：看護実践の科学、4月号、Vol.35、No.4、p80, 2010.

医療時評 連載 第5回：看護実践の科学、5月号、Vol.35、No.5、p80, 2010.

医療時評 連載 第6回：看護実践の科学、6月号、Vol.35、No.6、p80, 2010.

医療時評 連載 第7回：看護実践の科学、7月号、Vol.35、No.7、p80, 2010.

医療時評 連載 第8回：看護実践の科学、8月号、Vol.35、No.8、p80, 2010.

医療時評 連載 第8回：看護実践の科学、9月号、Vol.35、No.9、p80, 2010.

医療時評 連載 第8回：看護実践の科学、10月号、Vol.35、No.10、p80, 2010.

医療時評 連載 第8回：看護実践の科学、11月号、Vol.35、No.11、p80, 2010.

心と体、診察室「手の使い過ぎによる痺れ」：日経ビジネス，2. 22，p66，2010.

シリーズ「リハビリテーション2020」第4回対談 神津 仁×川合秀治：介護保険情報，2010. 5，p6-12，2010.

「脳卒中、心筋梗塞など、早朝高血圧が最も危険!」：女性自身ムック，保存版「女性ホルモンアップする『カラダ美人』新・読本，5月30日号，p20-21，2010.

「成人にも広がる百日咳、対処法は?」：キャリアブレイン，6月11日(13:14)，2010.

Dr. 神津の Home Care Manage①「在宅医療の今と医療の歴史」：CB news Executive Vol. 461，6月26日号，2010.

Dr. 神津の Home Care Manage②「在宅医療の今と医療の歴史」：CB news Executive Vol. 470，7月7日号，2010.

レポート「みんなで考えよう訪問看護と在宅ケア」：介護保険情報，7月号，p78-80，2010.

「あなたの身近で役に立つ-かかりつけの医師その重要性-」：テレビ東京、7月8日(木) 16時52分，2010.

「私の Vision と経営戦略」：Vision と戦略，8月号，p1-4，2010.

「シリーズそこが訊きたい! Home Care の時代がやってくる その時患者は?医療機器は?」：映像情報メディカル，Vol42，No11，10月号，p1-8，2010.

医療最前線「在宅医療を支える先端医療技術」：へるすあっぷ21，11月号，p24-25，2010.

成人百日咳と臨床内科医の健康度について調査、報告：Medical Tribune，12月2日号，p34，2010.

座談会：在宅医療を普及させるためには：Clinic magazine，1月号(通巻498号)，p12-17，2011.

身近な感染症を防ぐ：お品の長引くせきは・・・百日ぜきかも：健康のひろば，平成23年2月21日3月号，第1743号，p4，2011.

エスパ水野のあなたのボートにお邪魔します!「国内ではあまりお見かけしない、小粋なボートにお邪魔したい」の巻：BOAT CLUB ボート倶楽部，3月号，p50-53，2011.

タイムスインタビュー「教育を通じて在宅医療に取り組む若手医師層を増やすことが大切」：医療タイムス，3月28日，No. 2005，p31-32，2011.

日本医師会への提言「国民や医師への情報発信力強化と、硬直化しない人材登用システムを」：CLINIC BAMBOO，Vol. 363，Jun6，p30，2011.

禁煙を始めるために考えたいこと：クリンネス，6月号，p22，2011.

禁煙をはじめめるための環境整備：クリンネス，7月号，p19，2011.

明日の医療経営を考える Case Report3「在宅医療は無理をしない。遠慮なく頼める連携ネットワークづくりこそ、何より大切」：TEAM APPROACH，通巻第15号(7月)，2011.

禁煙を続けるためには：クリンネス，8月号，p12，2011.

「節電中だから・・・」と我慢せず賢く暑さを解消しましょう：Health Today，7月号，p14-17，2011.

この夏、特に気をつけたい熱中症：からだ想い，7・8月号，2011.

介護への「理解力」開業医の視点から「スムーズな連携でケアの質を向上させることで患者や家族からの評価が高まる」：CLINIC BAMBOO，Vol. 366，Sep 9，p14-15，2011.

物忘れをきちんと知っていきいき脳を保つ：からだ想い，9・10月号，2011.

ぐつすり眠って、すっきりと目覚めて、1日ハツラツと：からだ想い，10・11月号，2011.

特集 三月十一日 その時・・・：世田谷区医師会会報，第61巻，第2号，p5-9，2011.

「天皇陛下マイコプラズマの可能性」：フジテレビ、FNN スーパーニュース 11 月 24 日(木) 15 時 20 分, 2011.

巻頭言「なでしこジャパンと認知症」：東京内科医会会誌, 第 27 巻, 第 2 号, p87, 2011.

肝臓にやさしいお酒の飲み方:からだ想い, 12・1 月号, 2011・2012.

創刊 30 周年記念特集「日本の医療・福祉の軌跡とこれからの方向性」：CLINIC BAMBOO, Vol.370, Jan 1, p20-30, 2012.

「成人百日咳」：フジテレビ、FNN スーパーニュース 1 月 11 日(水) 18 時 10 分, 2012.

今からできる花粉症対策:からだ想い, 1・2 月号, 2012.

ちよつと拝見 233 特集号『『世田谷区若手医師の会』が行う地域の診療所間地チーム医療』：大塚薬報, 1・2 月合併号(No.672), p18-22, 2012.

連載:在宅医療 第 1 回「在宅医療への第一歩～まずは自分でできること、出来ないことを見極める～」: Primary vol. 01, p5-6. 2012.

夏も適度な温度で健康に:からだ想い, 6・7 月号, 2012.

いまから用心「熱中症」から身を守ろう!:月刊みすみ, 7 月号, 2012.

ビジネスマンのための熱中症対策(大塚製薬提供):週刊現代, 7 月 25 日号, 2012.

お風呂に上手に入って、体、ポカポカ!:からだ想い, 11・12 月号, 2012.

シリーズ介護福祉経営士「医療を取り巻く側面を理解し他職種の専門性を引き出そう」:介護ビジョン, 12 月号, p78, 2012.

寒い冬、安全な入浴で心も体もポカポカに:まいにち健康生活, p14, 2012.

在宅医療 OASIS, 2012.

検証 2013「医療の論点」論点 5 在宅医療～医療費の配分次第で決まる将来シナリオの明と暗: CLINIC BAMBOO, Vol.382, Jan 1, p18, 2013.

お腹の調子を整えましょう!:からだ想い, 1 月号, 2013.

私の秘密兵器「咽頭所見を撮影、経過の比較も可能」:日経メディカル, 1 月号, p129, 2013.

家庭での食中毒対策を十分に:まいにち健康生活, p12, 2013.

認知症ケアその未来を考える、提言 3「早期発見に欠かせない家族・気づき・かかりつけ医」: CLINIC BAMBOO, Vol.388, Jul 7, p24-25, 2013.

日めくり診察室「手の使い過ぎによる痺れ」:日経ビジネス Online, 6 月 14 日(金), 2013.

梅雨明け時期の熱中症に注意:まいにち健康生活, 7 月号, p10, 2013.

高齢の方は特に注意!キケンな「脱水症」:からだ想い, 7 月号, 2013.

知っているようで知らないコレステロールの話:からだ想い, 9 月号, 2013.

ぐっすり快眠でスッキリ目覚め:まいにち健康生活, 10 月号, p11, 2013.

冬こそ気をつけたい在宅医療の落とし穴:Health Today, 10 月号, p11-15, 2013.

毎日、家で血圧を測る習慣をつけよう:まいにち健康生活, 11 月号, p9, 2013.

在宅医療のあるべき姿とは:J M S, 11 月号, Vol. 203, P30-33. 2013.

短期集中連載認知症と生きる!第 2 回「初期の薬」と「行くべき病院」:女性セブン, 11 月 21 日号, p145-147, 2013.

“冷え”にくい体をつくろう:まいにち健康生活, 12 月号, p10, 2013.

笑う門には健康来る:まいにち健康生活, 1 月号, p9, 2014.

内科医における関節リウマチの診療-NSAIDs 貼付剤による疼痛コントロール-:日本臨床内科医会 座談会企画, 1月, 2014.

連載:在宅医療 第6回「在宅医療への第一歩～外来診療との両立～: Primary vol. 06, p5-6. 2014.

健康的な生活習慣で脳をイキイキ:まいにち健康生活, 2-3月号, p10, 2014.

健診結果を日常生活に活かそう:まいにち健康生活, 4月号, p10, 2014.

“たかが頭痛”と我慢していませんか:まいにち健康生活, 5月号, p9, 2014.

パネルディスカッション:内科疾患のピットフォールと医療訴訟「在宅医療」:Clinic magazine, 5月号(通巻539号), p36, 2014.

「かむ」はこんなに体にいい:まいにち健康生活, 6月号, p10, 2014.

暑いこの時期、こまめに水分補給を:まいにち健康生活, 7月号, p9, 2014.

カルテの余白「生にも、死にも寄り添う医療」:one hour, 7月号, p5-6, 2014.

私の視点「認知症治療薬『ボケ防止』の服用は危険」:朝日新聞, 8面, 7月13日, 2014.

巻頭言「ライフスタイルから導かれる機能的コミュニティ育成が必要～自らが望む医療環境である新しいシステムをゼロから作り上げてはどうか～」:新医療, P15, No.476, 8月号, 2014.

薬と食品の飲み合わせに気をつけて:まいにち健康生活, 8・9月号, p11, 2014.

“貯筋”に励んで、いつまでも元気に:まいにち健康生活, 10月号, p10, 2014.

爪は「健康を映す鏡」です:まいにち健康生活, 11月号, p10, 2014.

こたつや湯たんぽで”やけど”する!?:まいにち健康生活, 1月号, p10, 2015.

連載:在宅医療第8回最終回「在宅医療への第一歩～他職種との連携～」:Primary Vol.08, p5, 2015.

肺炎の予防に努めよう:まいにち健康生活, 2・3月号, p10, 2015.

医療を語る～From 院長～患者の安心・安全に配慮し、信頼性の高いジェネリック医薬品を処方すべき:CLINIC BAMBOO, Vol.406, Jan. 1, p73, 2015.

健康寿命を伸ばそう:まいにち健康生活, 4月号, p9, 2015.

ハイキングや登山を安全に楽しく:まいにち健康生活, 5月号, p7, 2015.

「あの頃の私」神経を診るのは1年目の自分だけ!必要に迫られてがむしゅらに勉強:日経メディカル Cadetto, Summer' 15, p069, 2015.

肩こり解消のヒント:まいにち健康生活, 6月号, p7, 2015.

早めにロコモ対策:まいにち健康生活, 7月号, p7, 2015.

塩分摂取の目安量がさらに低くなりました:まいにち健康生活, 8・9月号, p7, 2015.

深い呼吸で自律神経の乱れを整えよう:まいにち健康生活, 10・11月号, p7, 2015.

2016年の健康づくりは「+10(プラス・テン):まいにち健康生活, 12・1月号, p7, 2015-16.

昼寝で眠気スッキリ:まいにち健康生活, 2・3月号, p7, 2016.

脳に刺激を与えるライフスタイルを:まいにち健康生活, 4・5月号, p7, 2016.

夏の体”腸”管理:まいにち健康生活, 6・7月号, p7, 2016.

血管をしなやかに、若々しく:まいにち健康生活, 8・9月号, p6, 2016.

Olive Japan 2016:世田谷区医師会会報, 9月, 第66巻, 第2号, 通巻299号, 2016.

1日350gの野菜を摂ろう:まいにち健康生活, 10・11月号, p7, 2016.

はじめてのThailand～謎の飲み物を探して～(紀行文):世田谷区医師会会報, 12月, 第66巻, 第3号, 通巻300号, 2016.

気をつけよう、冬の事故:まいにち健康生活, 12・1月号, p7, 2016.

「ラクナ梗塞」に気を付けろ! 血圧が140以上の人は認知症になる p154-p157:週刊現代, 3月10日号, 2018.

地域医療の大家に聞く!!患者今昔物語[第四回]「神津 仁」:CLINIC BAMBOO, Vol. 445, April 4, p80-81, 2018.

地域の在宅医療を盛り上げる研究会・勉強会の緒戦「在宅医療を知ってもらうため病院内で研究会を開催」:CLINIC BAMBOO, Vol. 457, April 4, p36, 2019.

7) 講演会

「神経の話～痴呆(ぼけ)について～」於:駄々会, 1月21日, 1995年.

「中高齢者のしびれとふるえ」於:世田谷区厚生会館, 9月7日, 1995年.

「パーキンソン病との上手なおつきあい」於:世田谷区役所 第三庁舎(ブライトホール), 12月8日, 1995年.

「在宅における死を考える」於:世田谷区民会館・集会室, 3月27日, 1997年.

「脳卒中と在宅医療」(第二回世田谷区脳卒中懇話会)於:関東中央病院・会議室二階.

「ぬくもりのある家族ケアとは(医師の目から見た現状と問題点)」於:池袋、古流かたばみ会館、10月4日, 1997年.

「パーキンソン病とパーキンソン症候群」(世田谷医師会神経疾患研究会=世田谷ニューロンクラブ)於:世田谷医師会館、10月20日, 1997年.

第13回城南神経懇話会(症例発表座長)於:目黒雅叙園、10月23日, 1997年.

「片頭痛」(日本グラクソ社内勉強会)於:新宿、10月24日, 1997年.

全国在宅医療推進連絡協議会・発起会「在宅医療とネットワーク:シンポジウム(3)情報ネットワーク」於:お茶の水スクエアルーム6、10月26日, 1997年.

「インターネットドクター(J-wave:ブームタウン)」於:F M81. 3, 10月22日, 10時10分, 1997年.

東京医師会介護支援専門員養成指導者講習会第三回プログラム「シンポジウム:これからの高齢か社会における「かかりつけ医」の対応」於:新宿国際医療センター、11月16日, 1997年.

「パーキンソン病との上手なおつきあい」於:世田谷区役所 第三庁舎(ブライトホール), 12月9日, 1997年.

「地域医療と若手医師の会」於:萬有製薬目黒支店、4月24日, 1998年.

「神津内科クリニックにおける注腸検査(1)」(世田谷医師会消化器疾患研究会)於:世田谷医師会館、9月18日, 1998年.

「子供の心身発達におけるスポーツ」:若林スポーツクラブ例会, 若林小学校, 2月28日, 1998年.

「無理なく在宅医療を始めるには」於:後樂園会館, 12月13日, 1998年.

「不随意運動の診方」(世田谷医師会神経疾患研究会=世田谷ニューロンクラブ)於:世田谷医師会館、2月15日, 1999年.

「インスペクター教育講演」於:安田火災海上, 3月18日, 1999年.

「インターネットによる医療連携(土曜フォーラム)」於:N H k 第一ラジオ、4月3日,

10時15分,1999年.

「介護保険と在宅医療」(第六回世田谷地区脳卒中懇話会)於:世田谷区医師会・大講堂。

「主治医意見書の問題点と在宅医療」(第八回世田谷地区脳卒中懇話会)於・世田谷区医師会・大講堂。
インターネットと医学、その現状と今後(1):メディカル・コア(後藤学園東京衛生学園専門学校)、8月6日,2000年.

「在宅医療とコンピュータネットワーク」:日本医師会生涯研修講習会,栃木県医師会,3月10日,2001年.

「嚥下食、咀嚼困難者食の課題と実践」:第23回フードケータリングシンポジウム,東京ビックサイト,11月8日,2001年.

「現代人の心の健康」於:キャロットタワー5階セミナールームA・B,12月11日,2001年.

「在宅医療の今、そして未来～地域から世界を見据えて～」:田園調布医師会呼吸器研究会(都立荏原病院),7月12日,2002年.

「臨床医学から死を考える」:日本女子大,6月4日,2002年.

「神経疾患の診療連携」(世田谷医師会神経疾患研究会=世田谷ニューロンクラブ)於:世田谷医師会館、10月21日,2002年.

「在宅医療の確立と拡大を目指して」:神奈川県保険医協会勉強会(横浜),10月29日,2002年.

「在宅ハイテク高度医療」:岡山衛生会館,岡山県医師会,11月9日,2002年.

「会長講演『21世紀の医療とICDコーディング』」:第一回国際疾病分類学会,全共連ビル,5月25日,2003年.

「今日の在宅医療」:武田薬品工業指導者講習(日本橋東京本社),6月10日,2003.

「在宅における脳卒中患者のケアと栄養管理の実際」:文京区在宅医療連携講演会,文京区医師会,シビックセンター26Fスカイホール,9月12日,2003年.

特別発言「ICDコーディングの将来性について」:医療マネジメント学会,10月25日,2003年.

「こじれない人間関係を作るには～知って役立てよう“心の科学”～」:錦糸中学校体育館,11月13日,2003年.

「地域の中の在宅チーム医療」:第4回千代田区在宅医療研究会(千代田区医師会、神田医師会),日本教育会館7階中会議室,11月26日,2003年.

「ニューロタンをいかにプロモーションするか」:萬有製薬株式会社,東京本社,12月2日,2003年.

「21世紀の診療連携をうまく運ぶためには」:山之内製薬世田谷支店,1月8日,2004年.

「今若手MRに何を望むか」:アストラゼネカ,2月19日,2004年.

「MRのプレゼンテーションを評価する」:ファイザー,3月11日,2004年.

「医師にとって価値ある医薬品情報とは」:第32回JAPIC医薬品情報講座,長井記念館ホール,3月5日,2004年.

東京内科医会20周年記念講演会「日常臨床にITをどう使うか」:京王プラザホテル,3月13日,2004年.

「診療所経営の成功の秘訣」:ラジオNIKKEI,6月1日放送,2004年.

「痴呆について」:老人ホームクララ(千歳船橋),6月6日,2004年.

「頭痛研究会」第一回例会「片頭痛を見逃さないために」:セルリアン東急ホテル(渋谷),6月19日,2004年.

「慢性硬膜下血腫とパーキンソニズム」(世田谷医師会神経疾患研究会＝世田谷ニューロンクラブ) 於：世田谷医師会館、6月15日、2004年。

「世田谷区における在宅医療ネットワークの創生」：国際モダンホスピタルショー(東京ビックサイト)、7月15日、2004年。

「診療連携の正しいあり方」：日本大学医学部付属駿河台病院講堂、7月22日、2004年。

「いま新人MRに何を望むか」：山之内製薬株式会社社員セミナー(熱海研修センター)、7月31日、2004年。

「頭痛公開講座(座長)」：ファイザー株式会社(こまばエミナース)、11月24日、2004

第四回世田谷区医師会医学会シンポジウム(座長)：世田谷区医師会、11月13日、2004

「介護保険はどう変わる!この大改革をのりこえる為に!!～在宅主治医の立場から～」：第6回湘南在宅セミナー(藤沢市民会館大ホール)、12月12日、2004

「MR活動について考える『医療現場が期待するMRの医薬品情報活動』」：日本医薬品情報学会研修フォーラム2(日本大学薬学部6号館5階階段教室)、1月12日、2005

「動脈硬化ワークス」のより良い診療連携：西部動脈硬化ワークス(京王プラザホテル)、1月29日、2005
日常診療に生かす実習インターネット・電子メール入門・応用セミナー：総合プランナー、3月、2005年。

「高血圧診療と地域医療」：クラヤ三星堂株式会社(世田谷支店)、3月17日、2005

「医療現場からMRの情報活動を眺める」：アボット株式会社(東京支店)、3月30日、2005

「生と死を考える教育(I)」：明治大学和泉校舎、5月31日、2005

カンデサルタンと片頭痛治療：渋谷エクセルホテル東急、7月13日、2005

「いかにして世田谷区若手医師の会が誕生し活動したか」：虎ノ門病院会議室、9月6日、2005

国際熊野学会講演会「いまなぜ在宅医療なのか」：河口湖研修所、9月11日、2005

「生と死を考える教育(II)」：明治大学和泉校舎、10月18日、2005

「甲状腺機能障害と神経疾患～甲状腺機能亢進症に見られた痴呆の一例」(世田谷医師会神経疾患研究会＝世田谷ニューロンクラブ) 於：世田谷医師会館、11月25日、2005

「第三回在宅医療公開講座・シンポジウム」(全国在宅医療推進連絡協議会)：全共連ビル、1月21日、2006。

「脳が支える心の元気」(生きがい世田谷の会)：北沢タウンホール、1月28日、2006。

「抑肝散研究会」：渋谷セルリアンタワー東急ホテル、2月15日、2006。

「いかにして世田谷区若手医師の会が誕生し活動したか」：東京大学医科学研究所、2月22日、2006。

「日赤・世田谷神経疾患懇話会」：キャロットタワー、2月23日、2006。

「内科医会・在宅医療フォーラム」座長：世田谷区医師会館、6月17日、2006。

「脳が支える生き生き人生」：太子堂区民センター、6月24日、2006。

「内科医会セミナー」：聖路加国際病院、7月22日、2006。

「パーキンソン病と長く付き合うためには」(世田谷パーキンソン病友の会、イーライ・リリー株式会社)：弦巻区民会館、7月30日、2006。

JSH2004ガイドラインにおける各種降圧薬の効果検討：バイエル本社、11月16日、2006。

在宅医療経営講座「在宅医療何がポイントか」：多摩大学品川キャンパス(インターシティA棟27階多摩大学ルネッサンスセンター)、1月13日、2007。

「パーキンソン病の薬物療法」：中央区保健所，1月25日，2007.

第16回在宅医療・介護セミナー「基調講演，在宅医療と終末期医療」：神奈川県保険医協会，5月20日，2007.

T K C 医業・会計システム研究会第5期第2回継続研修会『在宅医療の現状とその進め方』：T K C 医業・会計システム研究会，ホテルベルクラシック東京6階コンチェルト，9月6日，2007.

東京内科医会市民セミナー「急な痛みに対応するか～急に頭痛になったら～」：東京内科医会，TOC有明ウェストホール4F，9月9日，2007.

T K C 医業・会計システム研究会第5期第2回継続研修会『在宅医療の現状とその進め方』：T K C 医業・会計システム研究会，住友ビルB1住友ホール，9月20日，2007.

豊島区医師会第一回在宅医療研修講演会「在宅医療の現状と未来(総論)」：豊島区医師会館4階講堂，9月27日，2007.

「在宅医療の現状と在宅療養支援診療所サポートセンターの概要について」：佐賀県立病院好生館，3月13日，2008.

健康日本21推進フォーラム会員通常総会講演会「在宅医療とその未来を探る」：都道府県会館4階401号室，6月4日，2008.

第二回シニアコーディネーター養成講座「高齢者の心と身体の健康」：明治薬科大学剛堂会館会議室，9月20日，2008.

現場からの医療改革推進協議会、第三回シンポジウム「医師の自律」：東京大学医科学研究所大講堂，11月9日，2008.

世田谷区健康づくり講演会「知って防ごう脳梗塞」：キャロットタワー5階文化生活情報センターセミナールームA及びB，12月16日，2008.

昭和大学医学部地域医療担当講義「かかりつけ医と在宅医療」：昭和大学医学部4号館301教室，5月23日，2009.

ユートブレイン2009年6月セミナー「医療の現場から見た、在宅医療の現状と今後の行方」：第一ホテル両国，6月18日，2009.

「医者と患者」(世田谷パーキンソン病友の会)：弦巻区民会館，7月26日，2009.

第一回在宅医療塾：やさしい手2F会議室，7月23日，2009.

第二回在宅医療塾：やさしい手2F会議室，8月20日，2009.

第三回在宅医療塾：やさしい手2F会議室，9月24日，2009.

第四回在宅医療塾：やさしい手2F会議室，10月22日，2009.

第五回在宅医療塾：やさしい手2F会議室，11月19日，2009.

ジャミック開業塾「成熟した医師人生を楽しむ」：東京ビックサイト「サイトA」，8月3日，2009.

シニアライフコーディネーター養成講座「うつ病にならないための健康法」：明治薬科大学「剛堂会館」，9月26日，2009.

さくら友の会第11回 介護福祉士ステップアップセミナー「これからの在宅介護と医療との連携」：大橋会館，9月27日，2009.

城南神経懇話会「神経疾患患者は在宅でどのように亡くなるか」：目黒雅叙園，10月15日，2009.

世田谷区医師会内科医会特別講演「H1N1 Influenza A for Management and Vaccination」シンポジウム：世田谷区医師会館4F講堂，10月17日，2009.

第3回カイエンセミナー「在宅医療の現状と今後」：世田谷区立砧区民会館，10月20日，2009.

健康セミナー「脳卒中の予防とケア」：祖師谷まちづくり出張所，10月29日，2009.

平成21年度明石市医師会病診連携交流会「クリニックの連携で全診療科を網羅」：ホテルキャッスルプラザ，1月30日，2010.

せたがや福祉100人委員会「最後まで在宅で支えるしくみづくり」部会、シリーズ「私たちがほしい最後まで在宅」第一回シンポジウム基調講演「いま、在宅医療は・・・」：世田谷区民会館別館三茶しゃれなあどホール「オリオン」，2月20日，2010.

知っているようで知らない身近な病気と薬の話：世田谷区老人会館，3月11日，2010.

「神津内科クリニックにおける地域医療研修の成果」：プラチナ勉強会，東京大学医科学研究所，旧ゲノム解析センター2階会議室，5月26日，2010.

「円滑な診病連携を実現する即時画像診断～在宅医療と患者さんのQOLの向上を目指して」GEヘルスケア・ジャパン「V scan」プレスカンファレンス：グランドハイアット東京，7月7日，2010.

「クリニックの連携とチーム医療」：国際医療福祉大学大学院公開講座(乃木坂スクール)，青山一丁目タワー4階，10月14日，2010.

知ってるつもりの在宅医療～ケアマネージャーのための在宅医療：世田谷区医師会地域保健部，梅ヶ丘パークホール，3月2日，2011.

老年期を生き生きと過ごすために：上町区民センター，11月11日，2011.

地域医療としての在宅医療～その現状と展望～：山形市立病院済生館，11月17日，2011.

「老いと健康」：太子堂区民センター，9月29日，2012.

日本臨床内科医会主催(日本医師会後援)医学生・研修医、大学院生等をサポートするための会」～「チャレンジする神経内科医」～：順天堂大学医学部，1月17日，2013.

第10回 国際疾病分類学会 学術大会「認知症とその考え方とアルツハイマー病の治療」：東邦大学医療センター大橋病院 臨床講堂，5月25日，2013.

第二回246神経疾患研究会「The Life of Parkinson disease～NBMの視点から～」：セルリアンタワー東急ホテルB1 萌黄，11月1日，2013.

東京内科医会30周年記念第27回医学会「内科疾患のピットホールと医療訴訟～在宅医療～」：京王プラザホテル5F コンコードA，3月16日，2014.

世田谷区医師会内科医会第52回神経疾患研究会 Opening remarks「地域で認知症を診ていくためには」：世田谷区医師会館4階会議室，6月11日，2014.

城南神経懇話会「ティーグラウンドで痙攣するハンディ7の男性例」：目黒雅叙園4階飛鳥，6月12日，2014.

Japan Stroke Forum「急性期脳梗塞の治療：パネルディスカッション～かかりつけ医の立場から～」：目黒雅叙園3階カシオペア，6月27日，2014.

Nの医会「インスリンと認知症～特にアルツハイマー病について～」：シェラトン都ホテル春日・佐保，7月9日，2014.

第三回全国病院事務長サミット×MIA 東京セミナー「シンポジウム『病院機能別医療(機関)経営の方向』パネラー」：TKP ガーデンシティ永田町バンケットホール1A，2月28日，2015.

サードパス「医療従事者のためのワークショップ：組織を超えたつながりの作り方～クリニック間で行うチーム医療『世田谷区若手医師の会はどのようにして生まれたか?』」：太子堂区民センター，3月9日，

2015.

若林・三軒茶屋地域高齢者見守り運動講演会「認知症の人を地域で支えていくために」：ひだまり友遊会館, 11月25日, 2015.

若林・三軒茶屋地域高齢者見守り運動講演会「認知症の人を地域で支えていくために」：若林区民集会所, 12月9日, 2015.

若林・三軒茶屋地域高齢者見守り運動講演会「認知症の人を地域で支えていくために」：太子堂出張所, 12月12日, 2015.

医学生、研修医、女性医師をサポートするための会「チャレンジする神経内科専門医」：日本大学病院5階大会議室, 3月2日, 2016.

共和アメル勉強会「パーキンソン病と薬」：ヒカリエカンファレンスルーム, 11月24日, 2016.

座談会～日本臨床内科医会企画～「かかりつけ医が”気づく””診る”認知症-低体重・低栄養から予測するアルツハイマー型認知症-:丸の内ホテル(東京), 10月25日, 2017.